

相生山の四季を歩く会

発表者：古川善嗣

私たちの主な活動

- 毎月第二日曜日、樹木・野鳥・昆虫・菌類など多岐にわたって観察。幼児から大人まで、どなたでも歓迎。2009年12月から2021年6月までに138回開催、参加人数のべ4,061人。
- ブログ「相生山からのメッセージ」で日々情報発信中。 <https://aioyama.blog.fc2.com/>
- 名古屋市への提案
相生山の現地で学んだことをもとに、2010年10月以来20件の提案を行ってきました。

私たちの思い

名古屋市は、自然についての認識と長期の展望を、充分持てないまま都市計画決定してしまいました。そして、地元住民に協力を強いることで、その不備を乗り越えようとしてきたのではないのでしょうか。

相生山の問題の本質はここにあると思います。

河村市長は、道路工事を止め「計画廃止」を公言したものの、

根本を見落とした「世界のAIOYAMA」公園構想は、ますます事態を混乱させています。

いま、私たち市民に問われているのは「相生山の道路や公園整備が、果たして本当に必要なのかどうか」であると思います。確かに道路があれば役立つこともあります。見た目キレイな公園は市民の憩いの場になるかもしれません。

けれども、どうでしょう。60年以上も前の計画が、そのまま今に通用しますか？ 1960年代以降の公害や、東日本大震災・福島原発事故から何を学んだのでしょうか。さらに、「新型コロナ」の情勢は、これまで経験したことが無い危機を示してはいませんか？

税金を何に使えばいいのか、これまでと同じような暮らし方でいいのかどうか。私たちの価値観そのものが問われています。発想の転換が求められています。

いのちは「食」から始まります。くらしの安心・安全のためには、相生山でも農業が続けられるよう応援しなければなりません。「里山」を良いと言うなら、景観だけにとどまらず、それを生み出した基盤を振り返る必要があります。こどもたちの健全な成長を願うなら、「ヒトもまた生態系の一員であることを体感できる」相生山緑地を、身近に保っておくことが求められます。

「名古屋に一つくらい『手を加えない緑地公園』を残したい」という根強い声があります。

自然環境に人の手を入れることに、いっそう慎重であらねばなりません。安直に手を入れた結果の責任をとれますか。何代もあとの子孫に対して。

私たち人間も自然の一部でしかありません。人間中心の「自然保護」「環境保全」「自然との共生」ではなく、「自然そのものをこれ以上壊さないよう努めることが大事」と、みんなで気づく時が来ていると私たちは考えています。

私たちの活動の一端を、別資料として用意しました。ご一読ください。

今年の年賀状です

相生山は大都会の名古屋に、自然の樹林が塊として残る貴重な所。野生のいのちから元気を頂き、人と人との営みを今年も楽しく紡ぎます。 2021年1月1日



相生山の四季を歩く会 事務局/古川
 年始まりは10日 9:30～ テーマは野鳥。鷹や冬鳥たちと出会おう。
 ☎060-5124-6463 ☎052(821)6463
 〒457-0863 名古屋市南区豊4-22-10
 ブログ：相生山からのメッセージ